

697 中央大学商学会大講演会

〔法学新報〕第32卷3（363）号 大正11年3月1日

○中央大学商学会大講演会 中央大学第一回商学会大講演会は会長たる馬場鎮一博士副会長たる太田哲三先生並に幹事天野徳也先生の御尽力と委員諸兄東西奔走遺憾なき準備に依りて最も盛大に且有意義に一月二十九日中央大学大講堂に於て開催されたり以下其の概要を記せんに数日前よりの掲示及び宣伝ビラ配布並に懇親会食券の売付殊に活動写真の広告は弥か上にも人気をそそり立て午後一時既に聴衆会場に充ち今や遅しと開会を待つ斯くして一時二十分本学教授たる副会長太田哲三先生満場の拍手に迎えられて登壇し開会の辞を述べらる即ち「唯今から商学会第一回講演会を開催す本日は佐竹、篠窪両先生及び矢野社長を迎へ其の有益なる講話を聴くことは諸君と共に甚た幸甚の至りである吾々は其講話により新智識を得らる事と思ふ商学会は四月に創設せられて今日は其の第一回の大会で斯く多数の集會者を見ましたから茲に本会の内容を説明致します従来本学には実業講話会なるものかあつて名士の講話を聴き後懇親会を開いて来たそうて其会は可成り成績を上げたのであります然るに昨年四月商学会と改名され其内容も一新しました商学の研究は少しく経済や法律の専攻とは異り實際問題に関係か深い従来より一層実社会と接触するの目的を以て本会は商学に関する研

究及討議、講演会を春秋二回開催す、見学旅行を行ふ、調査を行ふ等にあり所謂弁論は商学の学問ではない商学は口の学問ではなくして腕の学問でそれ以外に実質的内面的の研究を為すことか大切である之か商学の目的であると共に又本会の主眼点である諸君は有効に本会を利用して自発的に研究し精神的に仕事をする事を養ふことか肝要である図書館も建設されつつあるから其竣成後は一層諸君の研究は自由となるであらう私は只管諸君の研究努力を待つ云云」と希望を述べられ現下小売商人の暴利を貪ること我国商人の粗製濫造と其の原因、生産者と消費者との関係等實際問題に言及し降壇す講演に移つれば先づ第一に南洋視察談を試むらる可く文学士篠窪貢亮先生登壇す久しく南洋方面へ止まられし為か顔色赤銅色を呈し居れり悠々迫らざる態度「ユーモア」な言言句句細大其地の情況に精通せられたる講演せられたる講演には聴衆をして氏と共にシンガポールの位置気候より説かれて人種風俗産業等と約一時間半の長広告を振はる茲には其内容を記することを止め其項目のみを列挙することとせり(1)シンガポールの位置気候(2)此地のペスト病(3)シンガポールの人口(4)人種マレイ人の職業及性質(5)印度人(6)バンガリー族(7)キリン族(8)チツテ(9)ボンベーン人(10)トルコ人(11)在留邦人の現況(12)支那人(13)此地の産業と各国との関係等趣味津津たる講話を行はれシンガポールは前途有望の地なれば青年諸氏は大に往いて奮闘すべしと結はれ降壇すれば最近歐洲の經濟事情に關し講演為さる可く法学博士佐竹三吾先生登壇す歐洲の水陸交

通状態より説き始め各国貨幣の状況、各国労働問題各国商業状態等極めて有益なる講話あり最後に独逸学生は極端の保守主義を採れるに反し却つて労働者は過激なる運動又プロパガンダを行ふ即ち学生は講堂にて国家主義を高唱しつつあり国内の思想界の混乱著しきに際し学生の右の如き国家主義を採るは独逸の将来に於て慶賀すべきことなるべしと結て降壇す次で会長法学博士馬場鏝一先生は佐竹博士の講話に就き注釈を試みられ尚ほ目下議會に於ける物価引下物価調節物価低落と政府の方針、農家の疲弊<sup>つて</sup>労働賃銀問題等に論及せられ最後に戦後我国内一般の奢侈に陥れるを論せられ警告する所あり極めて有益なる講話を試みられたり次で第一相互保險会社長矢野恒太氏紹介せらる同氏は実業講話を試みらる即ち余の唱道する相互主義より云はは今日の言論は遊技言論なり現岡野学長と相互主義を我国に宣伝し相互保險会社を創立せしこと及び相互保險会社の内容組織等細大洩さず通俗的に極めて有益なる講話を為され斯くして講演会を終了せり其間委員諸氏は活動写真の準備に目を廻し準備成るや前滿鐵理事法学博士片山義勝氏の説明にて「滿洲の文化」と題する活動写真あり博士の説明に依り多大の感動を与へらる斯くして委員森田武君の閉会の辞にて散会す時に午後七時半次に別室に於て來賓學員在学生の大懇親会を催し余興として横田布水君の薩摩琵琶「湖水乗切り」に一座鳴を静め次に委員古川徹三郎君の尺八本曲「八千代」あり終りて天野先生の発声にて中央大学、商学会の万歳を三唱し各自十二分の歡を尽し快談盛況裏に散会せしは午後八時半頃なりき尚講演中数回に亘りて撮

影せり余は本会の為め尽瘁されたる委員森田武、種田春雄、古  
川徹三郎、植松勳諸氏の労を謝して本稿を終る（委員松尾記）